

紀州のあゆみ展の開催

6月2日（土）から7月1日（日）までの予定で「紀州のあゆみ」展が開催されます。この展示は公益財団法人和歌山県文化財センターが主催して行われるもので、平成29年度に発掘調査を行い、新たな発見があった遺跡や、遺物整理を行った結果、新たな知見が得られた遺跡、さらに新たに指定文化財に登録された考古資料及びその関連資料などの紹介です。

以下に展示される代表的な遺跡を紹介しておきましょう。

東城跡は和歌山市北東部、紀の川右岸に近い山口西及び楠本にあった古代末期（平安時代）から中世（鎌倉時代）にかけての居館跡（城跡）と、城が築かれる前にあった弥生時代末から古墳時代前半につくられた集落跡から構成される複合遺跡です。

東城は、鎌倉時代にこの地域の荘園を支配していた荘官中村氏の居城跡と伝えられてきましたが、その位置を含めて謎でした。今回の調査で幅 4.5m、深さ 1.2m 前後の堀が北西のコーナーを含めて延長 58m 分が見つかりました。この堀は居館を取り囲む周壕の一部とみられ、この発見によってこの地域の歴史の一端が明らかになりました。

ところで東城という名称は、この地から西に山名氏の居館であった場所を西城と呼んでいたことに由来するものです。またこの当時の城は戦国時代以降に見られる石垣と堀に囲まれた天守閣がそびえるようなものではなく、周囲を堀で囲った内部に建物が配置されるという構造のものでした。

さらにこの遺跡では、東城が築かれる以前にあった弥生時代末から古墳時代前期にかけての竪穴住居跡や溝が多数見つかり、そこからは多くの土器などの遺物が出土しています。またこれらの遺構群の東側には古い自然流路（川）の痕跡も確認されています。

このほか今回は、以下の遺跡の紹介と展示が行われます。

粟島遺跡（紀の川市）—奈良時代から平安時代にわたる時代に建てられた建物跡とそこから出土した遺物

根来寺遺跡（岩出市）—根来寺の坊院跡出土の中国磁器、国産陶器、瓦、石造品など

川辺遺跡（和歌山市）—弥生時代終末期から古墳時代及び古代から中世の構遺と構から出土した土器などの遺物

和歌山城跡（和歌山市）—和歌山城三の丸の武家屋敷から出土した江戸時代の陶磁器、土器、石製品、金属製品など。

田屋遺跡（和歌山市）—古墳時代の集落跡、及び出土遺物。

亀川遺跡（海南市）—弥生時代終末期の集落及びそこから廃棄された土器などの遺物。

祓殿石塚遺跡（田辺市）—石列・集石遺構から出土した中世の遺物及び出土した江戸時代の陶磁器

新宮城下町遺跡（新宮市）—中世の新宮津と考えられる川湊及び江戸時代の武家屋敷

から出土した土器類及び銭貨など

このほか平成 29 年度に和歌山県指定文化財に指定された金剛峯寺（高野町）出土の地鎮・鎮壇具（室町～江戸時代）の写真パネルなどが展示されます。また、期間中の 6 月 17 日（日）13：30 から展示講座が開催されます。問い合わせ、申し込みは紀伊風土記の丘（073-471-6123）まで。